

# AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

## 第27回 報告書

今年のテーマ

## リアルにふれる

一人ひとり大切なことを探してみよう！

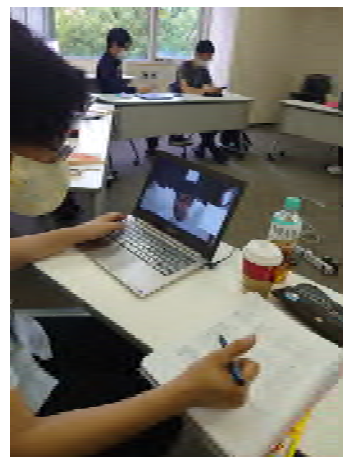


# 進化するAIDS文化フォーラム in 横浜

昨年のオープニング企画の別室へのライブ中継に引き続き、今年は運営委員会も本番のプログラムもZOOMでの配信を行いました。

配信形式は以下の3つのパターンでした。

1. 神奈川県民センターのホールからZOOM配信
2. 神奈川県民センターのホールから+全国各地からZOOM配信
3. 全国各地からZOOM配信



## <配信機材>

ZOOMでの単独配信は問題はないのですが、会場からの配信時には、音声と映像を一度パソコンに取り込む必要があります。しかし、会場(かながわ県民センターホール)の音声を直接パソコンに取り込むことができないため、ワイヤレスマイクセットとミキサーを用意した結果、会場に出力する音声とマイクのハウリングが予防できました。ビデオカメラの映像をパソコンに取り込むことで質の高い映像を配信ができました。

## <専門知識の重要性>

今回の配信がスムーズで行えたのは、音声のミキシングに不可欠な「ループバック機能」といった技術に精通するだけでなく、個人のミキサーを提供してくれた運営委員(熊谷洸介、前田陸生)の存在が不可欠でした。AIDS文化フォーラム in 横浜では常に「できる人が、できることを」実践し続けています。

## 配信機材



前田、熊谷チーム



実際のセット



これまでプログラムに参加できなかった事務局 (301) でもプログラムが視聴可だったことが思わぬメリットでした。

|                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 1. 進化するAIDS文化フォーラム in 横浜            | …P 2 |
| 2. プログラム一覧                          | …P 4 |
| 3. 開会式・組織委員長あいさつ                    | …P 6 |
| 4. オープニング「相変わらず感染症に振り回される日本」        | …P 7 |
| 5. オンライン講座                          | …P 8 |
| 6. オンライン活動紹介                        | …P16 |
| 7. 新聞記事                             | …P19 |
| 8. 広がるAIDS文化フォーラム                   | …P20 |
| 9. ウェブニュース記事                        | …P21 |
| 10. フォーラム全体集計表                      | …P22 |
| 11. AIDS文化フォーラムin横浜 27年の歩みー開催概要と経緯ー | …P24 |
| 12. 第27回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち    | …P27 |
| 13. AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約        | …P28 |
| 14. 協賛・寄付                           | …P29 |
| 15. 参加団体等名称・索引                      | …P29 |



### ● AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で27回目を迎えました。第27回は新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となりました。

### ● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、依存症、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

### ● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、活用していただければ幸いです。



手指衛生と入場者チェック

配信チーム

2020年 第27回 AIDS文化フォーラム in 横浜  
8月7日 (金) ZOOM ウェビナープログラム

プログラムの詳細と ZOOM 等での視聴は  
【参加のお申し込みにあたって】をお読みの上  
それぞれのプログラムの枠をクリックするとプログラムの詳細画面に移動します。  
プログラム詳細画面の「ここをクリックしてウェビナー登録へ」  
をクリックして登録の上ご参加ください。

8月7日 (金) 10:00~11:15  
開会式・オープニング

**相変わらず感染症に振り回される日本**  
～「いいエイズ、悪いエイズ」に学べず  
「いいコロナ、悪いコロナ」に!?!～



加藤力也 (HIV 陽性当事者)、宮田一雄 (元産経新聞)、宮崎豊久 (ネットスター株式会社)、  
岩室紳也 (運営委員会)


情報がなかなか入手できなかった時代と同じく、情報がふだんに入手できる時代でも偏見、  
誤解、差別が横行するのは何故? 「正しい知識」が得られない背景を考えます。

8月7日 (金) 13:00~13:45

**小学校保護者への性教育講演を通して考えていること**


助産師 有馬祐子

東京都品川区を拠点に開業助産師として活動しています。  
日本思春期学会幹事・日本思春期学会性教育認定講師です。  
未就学児・小・中・高校生・保護者に心とからだのセルフケアについて講演をしています。



8月7日 (金) 14:00~14:45

**感染症予防の基本はウイルスを知ること**  
～新型コロナウイルスの予防の基本～




岩室紳也 (ヘルスプロモーション推進センター)

予防で大事なことは科学的事実を丁寧に確認することです。  
キスでうつるコロナ、うつらない HIV。

8月7日 (金) 15:00~15:45

**職場で活かす平成生まれと昭和生まれの価値観の違い**




精華学園高等学校町田校 校長・心理カウンセラー 椎名雄一

昭和世代の想像を超えた平成世代の特徴、信連会話・性格選択・脱競争・  
マルチタスクなど活かす方法を紹介

8月7日 (金) 16:00~17:30

**私たちが分断する様々な「ダメ。ゼッタイ。」**  
～行き過ぎた予防啓発と規制の功罪～



松本俊彦 (精神科医)、塚本聖一 (元NHKアナウンサー) ビースさん (医師)、  
ラッシュ裁判関係者(ラッシュの規制を考える会)、他 司会: 岩室紳也 (運営委員会)

気がつけば「過剰」な反応になっているのは当事者の声に耳を傾けていないからではないでし  
ょうか。薬物依存症の第一人者と、実際に薬物使用で刑に服した人たちと共に考えます。


|                       |    |    |          |    |        |    |                  |
|-----------------------|----|----|----------|----|--------|----|------------------|
| PWA/H・セクシュアリティ・LGBT・性 | 文化 | 国際 | 保健・医療・福祉 | 教育 | 若者・ネット | 薬物 | 被害・人権・ノーマライゼーション |
|-----------------------|----|----|----------|----|--------|----|------------------|

2020年 第27回 AIDS文化フォーラム in 横浜  
8月8日 (土) ZOOM ウェビナープログラム

プログラムの詳細と ZOOM 等での視聴は  
【参加のお申し込みにあたって】をお読みの上  
それぞれのプログラムの枠をクリックするとプログラムの詳細画面に移動します。  
プログラム詳細画面の「ここをクリックしてウェビナー登録へ」  
をクリックして登録の上ご参加ください。

8月8日 (土) 10:00~11:15

**性犯罪の加害者になる人、ならない人を考える**



斉藤章佳 (大船櫻本クリニック) 宮崎豊久 (ネットスター株式会社)

岩室紳也 (運営委員会)

性犯罪は絶対に許せません。ダメ、絶対です。しかし、どんなに厳罰化しても、加害者、被害者  
は後を絶ちません。数多くの性犯罪者と向き合ってきた精神保健福祉士の斉藤章佳さんとインタ  
ーネットのプロの宮崎豊久さんと共に「予防」を考えます。

8月8日 (土) 11:30~12:15 **小中学生限定!夏の宿題に!**

**オンラインで絵本「こどもの権利を買わないで」**  
【マジ朗読×ガチトーク】

神奈川県ユニセフ協会

おうちでオンライン (ZOOM) を使い、参加したみんなで、絵本「こどもの権利を買わないで～  
ポンとミーチャのものがたり」を読んでみよう。そのあと、みんなと気になる感想をガチトーク!  
 (小学校高学年～中学生対象) (※こちらのプログラムは対象者限定のため ZOOM ミーティングを利用)

8月8日 (土) 12:30~13:15

**AIDS文化フォーラムを語ろうよ**



星野貴泰 と 山田雅子

私達は AIDS 文化フォーラムで学び、出会い、交えて、支えられてきました。思い出を語りましょ  
う。

8月8日 (土) 13:30~14:15


**HIV陽性者の生活とソーシャルワーカーの役割**

認定トクヒ AIDS ネットワーク横浜

横浜市大付病院 S W の潮尾緑さんから、感染者の「生きづらさ」の解消に尽力する活動をお話し  
いただきます。

8月8日 (土) 14:30~15:15

**お坊さんが行う性教育授業 ver.10**



古川潤哉 (浄土真宗本願寺派僧侶、AIDS文化フォーラム in 佐賀)

主に佐賀県の公立中学校3年生向けに実施している「生と性と死を考える」の模擬授業。

8月8日 (土) 15:30~16:15

**知りたい!HPV ワクチン・子宮頸がんとは?! 9 価って?**

HPV ワクチン for Me

小6から高1女子が無料で接種できる定期接種の HPV ワクチン。HPV ワクチンとは?  
打った方がいい? に答えます。

8月8日 (土) 16:30~17:30

**宗教と AIDS Part15 看取りを考える**  
～あらためて一人ひとりの生老病死とは～



平良愛香 (牧師)、安食真城 (龍谷大学)、山田圭吾 (カトリック信徒)、  
古川潤哉 (僧侶、AIDS文化フォーラム in 佐賀)、岩室紳也 (運営委員会)

HIV/AIDS では同性婚が認められないがために、新型コロナウイルスでは感染リスクを理由に  
看取りがかなわない人たちが増えています。

|                       |    |    |          |    |        |    |                  |
|-----------------------|----|----|----------|----|--------|----|------------------|
| PWA/H・セクシュアリティ・LGBT・性 | 文化 | 国際 | 保健・医療・福祉 | 教育 | 若者・ネット | 薬物 | 被害・人権・ノーマライゼーション |
|-----------------------|----|----|----------|----|--------|----|------------------|

## 2020年 第27回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 8月9日(日) ZOOM ウェビナープログラム

プログラムの詳細と ZOOM 等での視聴は 2020/10/9 版  
【参加のお申し込みにあたって】をお読みの上、  
それぞれのプログラムの枠をクリックするとプログラムの詳細画面に移動します。  
プログラム詳細画面の「ここをクリックしてウェビナー登録へ」  
をクリックして登録の上ご参加ください。

8月9日(日) 10:00~11:15

### 思春期とインターネットの諸問題

宮崎豊久 (ネットスター株式会社)

上村茂仁 (ウイメンズクリニックかみむら)

かずえちゃん (YouTuber) 岩室神也 (運営委員会)

いまや思春期の若者たちにとってインターネットは当たり前のツールになっています。YouTuber として、相談者として、インターネットトラブルの専門家として日々活躍されている方々に、何が問題で、どう対処すべきかを問いかけます。



8月9日(日) 13:30~14:45

### 水谷修さんに聞く、若者たちの今

～新型コロナウイルスで学校に行けない～

水谷修 (水谷青少年問題研究所所長)

聞き手 岩室神也 (運営委員会)

学校に行けない若者たちを支援してきた「夜回り先生」。学校という居場所を長期にわたって失った全国の若者たちからどのような声が寄せられたのかを伺います。



8月9日(日) 11:30~12:15

### 感染症と差別・偏見

薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ事件を振り返りながら薬害被害者と共に今も起こる感染症における差別・偏見について考えます。

8月9日(日) 12:30~13:15

### なぜ、私たちはここにいるのか?

ナルコティクスアノニマス

ナルコティクスアノニマス(NA)は薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

8月9日(日) 15:00~16:00

### 広がる AIDS 文化フォーラム

～陸前高田、横浜、名古屋、京都、佐賀～



AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

AIDS 文化フォーラム in 横浜

AIDS 文化フォーラム in 名古屋

AIDS 文化フォーラム in 京都

AIDS 文化フォーラム in 佐賀



1994年、エイズ国連会議を契機にはじまった、市民による市民のための AIDS 文化フォーラムの活動は、2011年に京都開催へつながったことを皮切りに全国へ(陸前高田、横浜、名古屋、京都、佐賀)と広がりました。

PWA/HIV・セクシュアリティ・LGBT・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット 薬物 薬害・人権・ノーマライゼーション

## オンライン活動紹介参加団体

期間：2020年8月7日(金)～9日(日)

場所：AIDS 文化フォーラム in 横浜 HP 上で公開

| 団体名                          | 団体概要   |
|------------------------------|--|
| カトリック HIV/AIDS デスク           | 1995年から HIV/AIDS の啓発活動をしています。小冊子「改訂版 HIV/AIDS について話したことがありますか」なども作成しています。                                  |
| 特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター | 神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を受け付けている NPO です。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いから 2015 年度から AIDS 文化フォーラムに参加しています。        |
| 日本 HIV 情報センター (JHIC)         | 日本 HIV 情報センター (JHIC) は、国籍、性別、セクシュアリティを問わず、皆が共に生きる社会を目指すボランティア団体です。活動内容は HIV/AIDS に関する情報提供、検査の相談やカウンセリングです。 |
| 横浜 AIDS 市民活動センター             | エイズについて考え行動する市民を応援する横浜市の施設です。2010 年より (公財) 横浜 YMCA が活動を受託しています。  |
| 横浜 YMCA                      | 世界 120 の国と地域に広がる YMCA は、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動しています。横浜 YMCA は 1994 年よりタイ・バンコク YMCA と協働し児童保護プロジェクトを進めています。    |
| HPV ワクチン for Me              | HPV Vaccine for Me は、2013 年からの混乱のなかで定期接種でのワクチン接種機会を逃してしまった人をサポートする活動です。                                    |
| YMCA ACT                     | 語学と国際交流に特化した、横浜駅が最寄りの YMCA。教育機関・企業へ出向いての英語レッスンや HIV/AIDS 啓発授業も行います。  |

## 開会式・組織委員長あいさつ

AIDS文化フォーラムin横浜の第27回目は、これまでにない新しいスタイルでの実施となります。毎回進化し続けるこのフォーラムですが、今年は特にオンライン開催という新たなチャレンジを中心に実施に向かって進んできました。

新型コロナウイルスの影響は、私たちの生活様式、社会の在り方を大きく変えようとしています。私たちがこれまでに経験した自然災害などの困難は、復興という言葉を旗印に耐えて、努力して、希望に向かって生活再建に取り組んできました。そのような中、誰もが手探りの中で生活することに必死で見えないものに対する恐怖と戦いながら、同調意識が高まっていると感じています。簡単に言えば、マスクをしていない人に対する厳しい視線、咳払いをすることさえ許されない雰囲気にも満たした列車内、公園で子どもが遊んでいる、若者が街で騒いでいるなどなどの通報。人間は本来、多様性を尊重する社会にいて、自分にはないものを持つ他者に出会うことによって、経験と知識が増え、自分なりに吸収して解釈することで全人的な成長をしていくものです。子どもたちへの教育も「違いを認め共に生きる」ことができるような多様な価値観に触れることが大切といえます。

そういった意味でも、今回のフォーラムのメインテーマである「リアルにふれる」は老若関係なく人間が成長するためのとても重要なものであると思います。こんな時だからこそ、だれもが委縮し、疑心暗鬼になる中で、多様な価値観を認め共に生きることを発信するフォーラムの存在が重要と考えます。「リアル」も「触れる」も、対面や実物への直接の見聞きによって得ることができると思われがちですが、リアルに触れることの重要性は、本物に出会うことと、真実に出会うことではないかと思えます。ネット上のあふれる情報、メディアから浴びる情報のシャワー、声の大きい人の意見に流されることなく、自らの価値観が尊重され、その判断や行動も尊重されるために、そして自分はありのままよい、と自信を持てるようになることが大切だと思います。もう一つ、「一人ひとり大切なことを探してみよう」としています。今回はオンラインでの開催になり、プレゼンターも参加者もどこからでも移動なく参加できるようになりました。

コマ数は減っても内容の質は高度に、そして多様性にあふれる内容と思っております。どうぞ皆様この3日間、リアルに触れて、リアルに気づき、大切なものに出会われることを願っています。

なお、この開催に向けて多くの方々のご協力と参画があったことを申し加えます。フォーラムの代名詞ともいべき単語に「手弁当」という言葉があります。もう一般的ではない単語かもしれませんが、本当に、フォーラムに集う多くの団体、個人、企業の方々の手弁当で作ってきました。フォーラムの趣旨に賛同し関わってくださる皆様の高い志に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。参加される皆様もぜひともにリアルに触れ、「参加者」から、ともにこのAIDS文化フォーラム in 横浜をつくっていく「伴走者」になっていただければ嬉しく思います。

組織委員長 佐竹博



## オープニング

### 相変わらず感染症に振り回される日本

～「いいエイズ、悪いエイズ」に学べず「いいコロナ、悪いコロナ」に!?!～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：加藤力也（HIV陽性当事者）、宮田一雄（元産経新聞）、宮崎豊久（ネットスター株式会社）

司会：岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜）

内容：HIV陽性の当事者、HIV/AIDSの初期の頃からマスコミの立場に関わってきた元新聞記者と医者、インターネットの専門家が、日本が感染症に振り回されている理由についてそれぞれの立場から検証しました。

キーワードとして、「感染させる」という言葉の問題点、「人を見ずウイルスを見る」、「社会の分断」、「知識は不安や恐怖をぬぐえない」、「曖昧な知識が偏見、誤解を増長させる」、「撲滅が排除につながる」、「1920年代のオルテガの大衆の逆襲は現代に通じる」、「同一でないものを排除する」、「マイノリティは同一ではあり得ない」、「情報が多いという錯覚」、「見たいものだけを見る」、「当事者の声の重要性」などが浮かび上がりました。

感染症に対する不安や恐怖を経験していた人こそ、積極的に発信することの重要性を改めて認識しました。

#### 視聴者感想：

- エイズの時とあまり変わらない状況がコロナでも起きていることが改めて理解でき、世論や大衆の存在を再認識しました。この状況を克服していくにはどうしたら良いのかこれからも考えたいです。(50代 教育関係 神奈川県)
- 新型コロナウイルス感染症について、立場的にいろいろ話す機会があるが、発信する者としては、正しい情報を持って、正しく怖がる必要があるのだということを感じた。また、インターネットは情報にあふれているようで、実は情報が少ない(自分がアクセスする情報しか得ていない)というのが印象に残りました。そのような中で育つ子ども達は、どのような価値観を持って大人になっていくのか、気になります。(30代 教育関係 神奈川県)
- 大衆とは、「自分がみんなと同じだと感じることに一向に苦痛を覚えず、他人と自分が同一であることと感じて、かえって良い気持ちになる。そのような人々全員である」という言葉が非常に印象に残りました。まさに昔から日本に根強く残る問題です。日本は良くも悪くも協調性や人の目を気にする社会ですが、協調性がなかったり、少しでも自分と違うと判断したとき、その集団で自分と違う人を排除する動きがあると感じました。(20代 学生 神奈川県)
- 人間は、100年前から変わっていない。HIVもコロナも、パニックは人間の心の弱さから来る「不安、恐怖」であり、人々がその共感を求めることで差別や排除につながることを改めて理解できました。自分がSNSや周囲との会話の中で発信する情報についても、自分が不安な気持ちを持ったままだと相手にもその不安が伝わってしまうことを意識して、発言に気を付けようと思いました。過去にこうして向き合った経験が次のパニックでも生かされるとわかると、今後の希望につながります。(40代 NPO/NGO 神奈川県)
- 報道に携わる方の視点がうかがえてとても良かったです。どういう「情報の世界」に生きているのかを振り返り、不安や恐れと向き合っていくのかを考えていきたいです。(40代 フリーのライター 性教育講師 茨城県)



舞台からこのスクリーンを見ながらトーク

## オンライン講座

### 小学校保護者への性教育講演を通して考えていること

主催：助産師 有馬祐子

日本思春期学会理事・性教育認定講師。様々な年齢の方々に心とからだのセルフケアについて講演しています。

内容：「保護者が何に戸惑っているのか」を確認することで、対話のある性教育講演ができるのではないかと考えます。小学生の保護者から講演依頼をされる時に、私がどのような打ち合わせをして臨んでいるかをお伝えしました。「心とからだのセルフケアの大切さ」が理解できるようになると、自分のからだも他者のからだも傷つくことを減らしていけるのではないのでしょうか？

#### 視聴者感想：

- 性教育は知識を教えることではなく、一緒に考えていくことが大切ということが印象に残りました。(30代 教育関係)
- 心とからだのセルフケアという言葉がとてもよかったです。優しい語り口に安心してお話を聞けるのではないかと思います。(40代 教育関係)
- 教科書には載っていない、まさに痒いところに手が届くような実践的で具体的で、とても参考になるお話でした。(30代 保健・医療・福祉関係)



連絡先：助産師 有馬祐子

E-mail: shishunki.arima@gmail.com

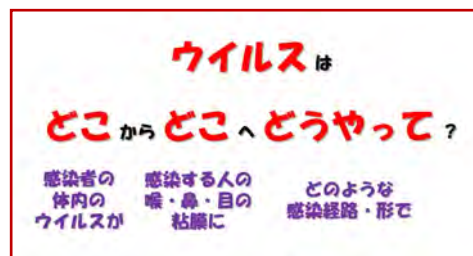
URL: <http://midwifemap.com/92yamw/mysite/staff/>

### 感染症予防の基本はウイルスを知ること ～新型コロナウイルスの予防の基本～

主催：岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

HIV/AIDSに長くかかわってきた感染症予防の専門医です。

内容：感染症は目に見えない病原体が相手となるため、HIV/AIDSでも多くの誤解、偏見、差別を経験してきました。偏見や差別、他人ごと意識の原因としてハイリスクアプローチ、すなわちリスクが高い人を早期に発見し、早期に対応すれば感染症は抑えられるという誤解が落とし穴になっていると考えられます。新型コロナウイルスでは「ホストクラブ」、「夜の街」、「3密を避けられない人たち」といった犯人探しが行われています。しかし、感染症対策で一番基本となるのが、ウイルスが、どこから、どこへ、どうやって広がり、どうすれば予防ができるかを正確に理解することで予防ができるだけでなく、正確な情報が無ければだれだって感染する可能性があることが理解され、偏見や差別も回避できます。



#### 視聴者感想：

- 「三密」について深く考え直すことができてよかったです。(30代 教育関係 三重県)
- これまでよく目にしてきた報道と、実際の研究論文の結果などをふまえて丁寧かつ端的にお話ししていただけてとてもよかったです！ラジオ感覚で聞いてたので、これから先生のサイトから資料を探して読み込むのが楽しみです！(20代 保健・医療・福祉関係 神奈川県)
- 改めて勉強させていただきました。ノートにまとめようと試みましたが…間に合いませんでした。先生のホームページからさらに自分の知識の定着へと落とし込んでいきたいと思えます。中3の息子も一緒に視聴したのですが、早速、ポテトチップスを食べるときに直前の手洗いを意識していました！(40代 教育関係 埼玉県)

連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL: <http://iwamuro.jp/corona>

## 職場で生かす平成生まれと昭和生まれの価値観の違い

主催：精華学園高等学校町田校 校舎長・心理カウンセラー 椎名雄一

内容：平成になってから社会はより大きく変化しました。多様化が進み、IT・エンタメ・アートによってより洗練されたサービスが提供され、若者の意識が大きく変化。今回は、特に若者と関わる教師・企業の教育担当者・親などに知ってもらいたい平成生まれと昭和生まれの違いを具体的に紹介しながら、「実は明治維新くらいの変化が起きているのではないか？」と思えるほどの変化を解説。「昭和の頃こうだった」と価値観を押し付けても、令和の社会は昭和のような社会ではありません。「今はどうなっているの？」と、若者の見えている現在の社会を理解しながら関わるのが重要です。「昭和の頃は・・・」という年長者の話は「武士道とは・・・」と言っているように若者には聞こえ、「侍なんて一人もいない社会で何言ってるの？」と思われることしたら大問題ですね。

### 視聴者感想：

- なるほどと思うことが多かったです。褒めるということは言葉だけではなく社会と結びついていないとダメという話にとっても納得しました。(50代 教育関係 神奈川県)
- 前までは若い世代に入っていたので、その差をあまり意識してこなかったけれど、少し上の立場になって、リーダー的な役割を担う必要が出てくると、それを考えた上でのコミュニケーションが大切なのだと思います。(30代 教育関係 神奈川県)

連絡先：精華学園高等学校 町田校

〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F) TEL:042-739-7140

URL: <http://seika-machida.jp> E-mail: [info@seika-machida.jp](mailto:info@seika-machida.jp)



## 私たちが分断する様々な『ダメ。ゼッタイ。』

### ～行き過ぎた予防啓発と規制の功罪～

主催：松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部长）

岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員）

登壇：塚本堅一（元NHKアナウンサー）

新堂慎二（医師：仮名：ニックネーム：ピース）

ラッシュ裁判関係者(ラッシュの規制を考える会)、他21

内容：ウェブニュース記事 p21 参照。



### 視聴者感想：

- とても興味深いセッションでした。依存症に対する偏見差別とコロナ問題、社会の流れ、まさしく今自分たちが意識していかなければいけない課題だと感じました。(50代 NPO/NGO 神奈川県)
- 最後の松本先生の言葉、感染症と薬物の共通点「人の移動」「過度な規制が差別と偏見を生む」がすっと落ちました。思考停止しないで正しく怖がりたいたいです。(40代 保健・医療・福祉関係 大阪府)
- 違う立場の登壇者が「ルールが本当に正しいのか考え続ける大切さ」・「繋がりを持ち続ける大切さ」・「違う意見の人とも対話を続ける大切さ」を口を揃えておっしゃっていた事に感動しました。松本先生がおっしゃっていた「どさくさに紛れて行われる人権(プライバシー)侵害」はストンと落ちてきました。(40代 保健・医療・福祉関係 千葉県)
- 医者守秘義務と刑法の話、ドラッグ絡みの裁判の話とか、他でなかなか聞けない内容なので、時間が短く感じました。医療者なので、麻薬も向精神薬も取り扱う機会も多いですが、やってみたいというような感覚になったことはないのは絆(きずな、ほだし)両方多いからかな…とったりもしました。(40代 保健・医療・福祉関係 山梨県)
- ピースさんの『「どうして薬物使ったの？」を説明するのが難しい』の話が一番リアルですごくよかったです。(20代 保健・医療・福祉関係 神奈川県)
- 反対意見の人も登壇出来たら良いですね。(60代 会社員 兵庫県)

連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL: <http://iwamuro.jp/>

## 性犯罪の加害者になる人、ならない人を考える

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：斉藤章佳（大船榎本クリニック） 宮崎豊久（ネットスター株式会社）

岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員）

内容：性犯罪は絶対に許せません。ダメ、絶対です。しかし、どんなに厳罰化しても、加害者、被害者は後を絶ちません。多くの性犯罪者と向き合ってきた精神保健福祉士の斉藤章佳さんからは「克服し続ける」ための関りの大切さが、インターネットのプロの宮崎豊久さんからは児童ポルノがネット上に氾濫している現状が、岩室紳也医師は公衆衛生の立場から、氾濫する性情報に対して、仲間同士でどう向き合うかを性教育の中に盛り込む必要性が指摘されました。

### 視聴者感想：

- 今まで性犯罪者に対して嫌悪感しかもっておらず、その後どう社会復帰してくか、どの様なプロセスで犯罪を犯してしまうということを考えたことがなかったのでとても学びになりました。個人的に印象に残ったのは、やめ続けた中でどう人間関係を新しく構築してくかということが克服につながるという言葉でした。(20代 学生 神奈川県)
- 知っている方に性犯罪をおかしてしまった人がいました。その人と何回か話していてとても不思議に思ったことがありました。相手がどう感じるかという感覚がその人には欠落していました。いつも自分の気持ちを優先している方でした。そうやって孤独に陥ってしまうのかなど。今日の斉藤さん宮崎さん岩室先生のお話をうかがっていて色々腑に落ちました。人との繋がり大切さを改めて感じるができる講座でした。(50代 教育関係 神奈川県)
- 幼少期に性犯罪の被害者となった一人として、人間として許せない気持ちはあるけれど、社会の認識や教育が変われば被害者も加害者も減らせるように思えて勇気が出た。性教育者としての道をしっかり歩んでいきたい。(20代 学生 京都府)
- 性犯罪の加害者になってしまった人達の中には、情報がなく、情報弱者とも思える人がいるのだとも気づくことができました。(40代 保健・医療・福祉関係 山梨県)
- 私自身の性教育・性に関することとの出会いが性描写を含む「青年系漫画」だったので、それに対して「こういう世界もあるんだ。こういうのありなんだ」と憧れを持ったきっかけがあるので、私の人生も一歩間違えれば危うかったかもなあと思いました。「性対象は変わらずに、自分の年齢だけあがっていく。」という感覚を知り、なんとなく納得できました。(20代 保健・医療・福祉関係 神奈川県)



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>

## 小中学生限定！

### オンラインで絵本「こどもの権利を買わないで」マジ朗読×ガチトーク

主催：神奈川県ユニセフ協会

内容：今年はオンライン開催となったため、毎年AIDS文化フォーラムin横浜のユニセフブースで頒布・紹介している絵本「こどもの権利を買わないで～ペンとミーチャのものがたり」を参加者と一緒に輪読するZOOMイベントを行いました。朗読のための発声練習をしていざスタート！

感想を言い合った後「実は新型コロナウイルスの影響で児童労働や子どもに対する暴力が増えるかもしれない」という話題に…。特に、南アジアでは新型コロナウイルスによる収入減や失業の影響で、貧困に陥る子どもたちが増えると予測されています。

貧しさゆえに仕事をしなければならない子どもたち。今は絵本のように村を直接訪れて子どもに仕事を紹介するだけでなく、インターネットでの大人たちの甘い誘いのなかにも、もしかするとペンやミーチャのような子どもたちが増えてしまう恐れがあるのです。最後に参加者の皆さんと過酷な児童労働の現状を映像で見ました。

連絡先：神奈川県ユニセフ協会

〒231-0063横浜市中区花咲町2-57ミシナビル201 TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

E-mail:[info@unicef-kanagawa.jp](mailto:info@unicef-kanagawa.jp) URL: <https://www.unicef-kanagawa.jp/>

## AIDS文化フォーラムを語ろうよ

主催：星野貴泰と山田雅子

群馬県で手術室の看護師として働きながら性教育を行う星野貴泰

看護教員として働きながらAIDS文化フォーラム in 横浜の運営委員を務める山田雅子

**内容：**私(星野貴泰)が新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言以降に始めた性教育オンラインイベント「性を語ろうよ」で、たくさんのゲストといろいろなテーマで語る中、今回のテーマから、私にとって大切なもの、AIDS文化フォーラム愛を語りたいたいと思ひ、山田先生に協力をいただき、ラジオのトーク番組形式のプログラムを行いました。トークの中で、私が10年前初めてAIDS文化フォーラムで分科会をしたときに、Yahoo!知恵袋で「当日の服装はどんなものが良いですか?」と聞いたことを山田先生に発見されていた、しかも未だに検索できてしまう…。これをデジタルタトゥーの事例として、今度使おうと思います。

### 視聴者感想：

- 星野さんとAIDS文化フォーラムの歴史(?)がわかってなごめました。こういう交流企画もやっぱり大事ですね。
- おふたりのあたたかなお人柄を感じ、自由に語り合える様子を見て素敵な時間を過ごしました。
- AIDS文化フォーラムでの繋がりが居場所になっているというお話、とても共感出来ました。
- 初参加でオンラインだったが、みんなが同じ会場に集まれるようになったら、素敵な出会いにあふれているんだろうなと思った。

連絡先：星野貴泰 E-mail:tkstarys.lovelives@gmail.com

Twitter:http://www.twitter.com/tkstarys

URL:http://www.tkstarys.com

性教育コミュニティ「kokoro color」:https://www.tkstarys.com/blank

※講演依頼があればどこへでも出かけますのでご相談ください。



## HIV陽性者の生活とソーシャルワーカーの役割

主催：横浜市認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

1993年設立で、AIDS文化フォーラム in 横浜には第1回から継続参加。電話相談、性・STIの講師派遣など実施中。

**内容：**横浜市大病院ソーシャルワーカー瀬尾緑さんに「HIV陽性者の生活とソーシャルワーカーの役割」を講演していただきました。HIV感染症が死に至る病ではなくなり、AIDSにもならなくなっています。それには感染者の方の不断の努力が不可欠ですし、本人、家族だけでなく、周囲の理解と励ましも不可欠です。いまだにHIV/AIDSに対する偏見や差別が垣間見えます。直接治療に当たる医師、看護師だけでなく、本人を支え、周囲の理解を進め、感染者とともに具体的な生活を支えていくソーシャルワーカーの役割と障壁の実際を現場から伝えてもらいました。感想には、「陽性患者さんが来院出来るようアプローチし続けていいのか悩んでいたのが、大変参考になりました」、「本来味方であるはずの医療従事者が、HIV患者さんの生きづらさの一因になっていると知ってとても胸が痛みました。私はきっと、「そうじゃない」医療従事者になります。」などあり、私たちの活動の励みにもなりました。

連絡先：AIDSネットワーク横浜

〒231-0015横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F


横浜AIDS市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809

E-mail: any@netpro.ne.jp

URL:http://www.netpro.ne.jp/~any/

**でも..ちょっと考えてみてください**



障害者手帳をとると、「障害者」になってしまうので抵抗があります…。

身体障害者手帳には「免疫機能」と記載されるため、わかる人にはHIV陽性とわかってしまう。  
 身体障害者手帳を取得すること＝「障害者」というレッテルを貼られると感じることもある。  
 →こうした当事者の葛藤にも配慮すべきである。



om

## お坊さんが行う性教育授業 ver.10

主催：古川潤哉（浄土真宗本願寺派僧侶、AIDS文化フォーラム in 佐賀）

主に佐賀県の公立中学校3年生向けに実施している「生と性と死を考える」の模擬授業。

**内容:**佐賀県DV総合対策センターの中学生向けDV予防教育の一環として、主に3年生向けに実施している「生と性と死を考える」性教育授業の模擬授業。毎年、横浜と京都のAIDS文化フォーラムにて実施しているが、今回はオンライン開催で時間枠が例年より短いことから、授業そのものというよりも、背景となる仏教の生命観、世界観などと、実際に私が子ども達のどの部分への配慮をしているのかについてを中心に構成。「いのちの大切さ」を安直に使ってはいけない理由や、「親への感謝」は強要されるものではなく、親も子も関係性は様々であることを交え、子どもたちには、生きることと性のこと、死ぬことがバラバラのことではなく、他人事でもないものであるとの理解を、大人には子どもの環境や思いは標準化できないことへの理解を促す意図で実施した。

参加者の反応が解りにくいためペース配分等がうまくできず、今後の課題となった。

### 視聴者感想：

- 以前から気になっていてオンライン開催のおかげで聴けた。（複数）
- 授業の内容、実際の取り組みを詳しく知りたい。（複数）
- 詰め込みすぎ感があった。授業の部分だけかと思った。（40代 兵庫県 その他）
- 何度聴いてもおもしろい。（山梨県 教育関係）
- 帰省中の娘17歳と聴けた。生きること、死ぬこと、人生の中で得る縁について考えていきたい。（40代 茨城県 その他）

連絡先：古川潤哉 佐賀県伊万里市 浄誓寺

URL：<http://furujuun.info>

E-mail：[junya@joseiji.org](mailto:junya@joseiji.org)



## 知りたい！HPVワクチン・子宮頸がんとは？！9価って？

主催：HPVワクチン for Me

HPVワクチンを無料で打つ機会を逃した大学生たちが、もう一度チャンスをください！と活動しています。

**内容:**中学生向けのHPVワクチン資料を作成した大学生たちが、自分たちこそ打ちそびれた年代であることに気づき、再びHPVワクチンを無料で打ちたい、とオンライン署名活動を始めました。また、オンラインでHPVワクチンのことを学ぶ勉強会を開催しています。今回はAIDS文化フォーラムの参加者に向けて勉強会を行い、参加者の質問に回答しました。

### 視聴者感想：

- 37ですが私も打ちたいと思いました。まだまだ子ども達を残して死ねない！取り急ぎ市のクーポンを持って頸がん検診に行きますね。
- HPVワクチンがきちんと理解され、望む人がスムーズに接種できるようになってほしい。高橋先生、医学生、大学生の3人、年齢立場が異なるところからのお話は興味深かったです。
- 知っているようで知らなかったことがたくさんありました。小中学校の養護教諭の研修会でもオンライン講座で、研修できたらいいなと思いました。

連絡先：HPVワクチン for Me

URL：<https://hpvvaccineforme.jimdofree.com/>

HP上でAIDS文化フォーラム当日の動画

<https://studio.youtube.com/channel/UCOKxhpJPybyGOa-6FiUIJyg>

署名「HPVワクチン(子宮頸がん等予防)を打つ機会を奪われた若者たちが無料で接種するチャンスをください」への協力をぜひご検討ください！

## 宗教とAIDS Part15 看取りを考える

### ～あらためて一人ひとりの生老病死とは～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：平良愛香（牧師）、安食真城（龍谷大学）、山田圭吾（カトリック信徒）、古川潤哉（僧侶、AIDS文化フォーラム in 佐賀）、岩室紳也（運営委員会）

内容：誰もが避けて通ることができない自分の死の問題と、身近な人を看取る、弔うことについて、普段タブー視したり考えることを避けたりしがちな部分について掘り下げていく…はずであったが、実際には看取りに該当する内容は幅広く、良い葬儀とはどのようなものか？など具体的な話が盛り上がり全体的には消化不良の感が否めないものとなった。望むことは多々あれど、それぞれ思い通りに行かないのが生老病死であり、看取りにしても葬儀にしてもどのような形であれ、どのような結果であれ、安心して生きて、安心して死ねる生き方、またそれが実現する世の中であってほしいと願う。（古川潤哉）

#### 視聴者感想：

- 「死は悪いことではない」という考え方に共感しました、「死」について、ゆっくり考えていこうと思います。（40代 教育関係 東京都）
- 内容はとても良かった。特に平良先生がされた、亡くなったゲイの友人を送るために100人が近く集まった話、生きることは苦しいとしっかりと受け止め、そして亡くなった人とは死によって断絶はしていないという教えのお話を伺っていて、涙が出るほどに感動しました。（60代 団体職員 神奈川県）



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169 URL:<https://abf-yokohama.org/> E-mail:[abf@yokohamaymca.org](mailto:abf@yokohamaymca.org)

## 思春期とインターネットの問題

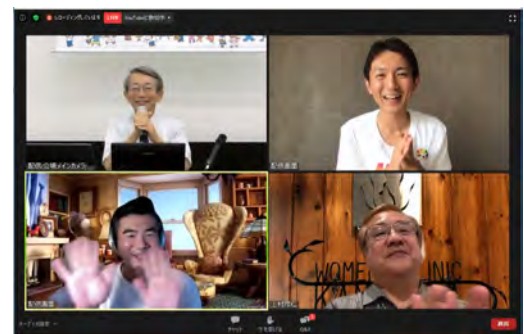
主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：かずえちゃん(YouTuber) 上村茂仁(医師) 岩室紳也(医師) 宮崎豊久(インターネット専門家)

内容：先生や保護者の方の不安の多くは、子どもがインターネットを使うと、見えないところで何が起きているかわからないこと。ゲームやSNSをやり始めると、勉強ができなくなってしまうとのこと。しかし、時代によって課題に挙がる娯楽やサービスの内容は異なるものの、子どもの発育に関する課題は変わらないのではないかと。このセッションは、ワークショップ形式で進め、実際に起きた子どものトラブルについて、保護者の立場でどのように接するか、子どもたちの立場ではどのように接してもらいたいかを考えながら、親の視点と子どもの視点の解離を体験していただきました。

#### 視聴者感想：

- 「わかり合うこと」ばかりに注力するばかりに、「わからない人」の存在に一喜一憂していましたが、実は、「わからない」という人とどのように共存？つながるのか？を考えることが必要だった。（50代 教育関係 東京都）
- ネットがあるから、ネットの使い方が悪いから、問題がおこるだけではなく、もともとあるものが表面化している、見えやすくなっている、そのことから考えていく必要があると思いました。（50代 教育関係 北海道）
- 専門家さんたちが認識している問題、それが一般の人でも自分事と考えるにはどうしたらいいのかなあ、と考えています。例えば加害者を排除することで社会は良くなることなど…とはいえママ友にそういう話をしてても基本的には「悪い人は排除」以上の考え方が出来ないと思いました。（40代 ニート主婦 東京都）
- 高校生の間で毎年インターネット関連のトラブルが起こります。誹謗中傷を書いてはいけない、個人情報を書いてはいけない、などと注意しながらも、そんな注意をしても本質的には意味がないだろうという思いも。「関係性がない中でのルールは暴力」という言葉も印象的でした。（50代 教育関係 岐阜県）



連絡先：宮崎豊久 E-mail:[miyazaki.toyohisa@gmail.com](mailto:miyazaki.toyohisa@gmail.com)

## 感染症と差別・偏見

### 主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ訴訟が1996年3月に和解するも被害者の実情は悲惨で薬害エイズを風化させないために地域で活動している団体。

**内容:** コロナ禍の中での初めてのオンラインフォーラムということで、人を目の前にした対話形式からインターネットを通じた画面からの発信になり、伝え方に難しいところもありましたが、全国各地からの参加があり、遠方の方からの質問も頂きました。

内容は「感染症と差別・偏見」ということでまさに今コロナ禍の中での差別・偏見と、当時のエイズ禍での差別・偏見を比較しながら考えました。シンポジストは薬害エイズ事件当時新聞記者として積極的に取材した毎日新聞の山科武司さんと薬害エイズ被害者の青木信之さん。

山科武司さんには報道におけるコロナとエイズの相違点を浮き彫りにして、現代ではエイズを経験して意識の高まりや、またSNSの発達がありますが、逆に行き過ぎた同調圧力も出ていると指摘し、事実を知ることと想像力を持つこと(明日は我が身)の大切さをお話し頂きました。また青木信之さんにはエイズ禍当時に体験した差別・偏見を語ってもらいました。

参加者からは当事者の生の声が聞けて良かったとの感想を頂きました。行政や教育に伝えたいことは？との質問も頂き、被害実態等の当事者の生の声を聞く機会を作ってほしいと回答しました。初めてのオンラインの試みでしたが、多くの方に聞いていただきありがとうございました。

**連絡先:** 薬害エイズを考える山の手の会 〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105 TEL&FAX:03-6676-2181  
E-mail: egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp

---

## なぜ、私たちはここにいるのか？

### 主催：ナルコティクスアノニマス

薬物依存の当事者団体

**内容:** ナルコティクスアノニマス(以下、NAと称します)のメンバーが体験談を話し、なぜ薬物を使うようになったのか？薬物を使用してどうなったのか？そして、どのようにして回復してきたかを、経験と希望と力のメッセージとして伝えました。

また、NAについて、私たちは非営利団体であり、メンバーになるための条件はなく、入会金や会費もかからない事と定期的なミーティング参加と仲間同士の支援がこのプログラムの基盤になっている事を説明しました。

NAは断薬を基本とした回復プログラムであり、アルコールを含む全ての薬物を完全に断つというものです。

そしてNAは世界中の薬物依存症に回復チャンスを提供しています。

特定の薬物にとらわれることなく私たちは依存症という病気に焦点を合わせて活動をしています。初めてミーティングに参加したメンバーに唯一求めることは、薬物の使用をやめたいという願望だけです。私たちはその薬物依存症者に手を差し伸べることを目的に活動しています。

**連絡先:** ナルコティクスアノニマスジャパン

NAジャパンセントラルオフィス 〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301

TEL 050-6867-3765 (ナルコティクスアノニマス南関東エリア) 時間 17時~21時

E-mail: naminamikanto.pi@gmail.com(ナルコティクスアノニマス南関東エリア広報委員会)

URL: <http://najapan.org>

## 水谷修さんに聞く、若者たちの今 ～新型コロナウイルスで学校に行けない～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：水谷修（水谷青少年問題研究所所長）

聞き手 岩室紳也（運営委員会）



内容：水谷修さんと長年の友人の岩室紳也との本音トーク。

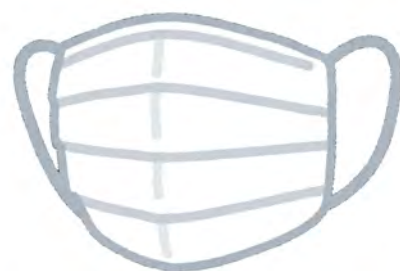
### 視聴者感想：

- 少しでも深く分かり合えるために知識は必要。信頼や関わり合いのなかでお互いがいい感じで作るルール。学ぶことや話し合いは行動なので、教えやすかったり、実行しやすいのですが、「信頼」することは気持ちなので、自分自身も時に難しく、ましてや誰かに信頼を教えることはとても難しいです。そういう思いをもちつつ、このようなフォーラムで自分の中の信頼は育っている気がします。（50代 保健・医療・福祉関係 大分県）
- 異なる立場の2人の話がシンクロしながらも同じ方向を向いており、子どもにかかわる立場としてはいろいろ振り返ることができました。（30代 教育関係 鹿児島県）
- 水谷先生の講演を楽しみにしておりました。岩室先生とのコラボレーションは最強です！言霊を感じ、自分も動かなければ！と、お話を伺う度に思います。「あなたを救うのはあなた自身(しっかりと周りのサポートを受けながら)」「隠すな！」心に残りました。ありがとうございました。（40代 教育関係 東京都）
- 隠さないこと、、、理想だけど、それができるのは叩き上げの自己肯定感が高い人。今の自己責任論を振りかざした排除の社会ではなかなかのハードル。ボトムアップじゃなくてトップダウンでモデルをたくさん作ってほしい。そうじゃないと安心してさらけ出せないのじゃないかと思いました。（40代 保健・医療・福祉関係 大阪府）

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail:abf@yokohamaymca.org URL:https://abf-yokohama.org/



## オンライン活動紹介

### カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

**内容:** 例年だと啓発グッズの紹介や冊子の配布等を行ない、来場者との交流を通して人の輪を広げていくのですが、今年はオンライン開催となり「オンライン活動紹介」で参加しました。3分弱の短い映像ですが、オルゴールの調べにのせ、今まで行ってきたデスクの活動をパワーポイントでまとめました。当デスクのホームページ(<http://cath-aids-desk.jp/>)で閲覧できますのでご視聴下さい。

今年のテーマは「リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう」でしたが、スタッフからも出演者からも“バーチャル(インターネット)を通して、バーチャル(仮想)ではない熱い思い”を受け取りました。オンライン開催は、8月の暑さ厳しい中、体調が思わしくない方や身体の障がい、諸事情等で現地に足を運べない人も参加でき、とても有用だったのではないのでしょうか。来年、コロナの状況次第ですが、現地(横浜)で開催しつつ、同時にオンラインの配信も希望いたします。

**連絡先:** カトリック中央協議会 社会福音化推進部 HIV/AIDS デスク  
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館6階  
TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920

E-mail: [hivaid@cbcj.catholic.jp](mailto:hivaid@cbcj.catholic.jp)

URL: <http://www.cath-aids-desk.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/hivaid@cbcj>



### 特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を受けているNPOです。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いで2015年度からAIDS文化フォーラムin横浜に参加しています。

**内容:** 活動紹介の動画を作成して、公開しました！

今年はオンライン開催ということで、講座はスキル不足もあり断念しました。講座はできないまでも、せめて活動紹介の動画を配信してみようということになり、動画作成にチャレンジ！

活動の目的や内容、団体の歴史など3分の動画にまとめ、とてもいい紹介動画ができたと自負しております(笑)。毎日の忙しさに流されて、なかなか団体の広報活動がマンネリ化を抜け出せない中、とてもいいきっかけを頂いたと思っています。

私たちが目指す「多文化共生」社会の実現に向けて、私たちの活動をより多くの人に知っていただくために今後も活用していきたいと思えます。

「NPO法人 かながわ外国人すまいサポートセンター」の紹介動画、AIDS文化フォーラム開催期間だけの配信だけではもったいないと、当団体ホームページでも配信予定です。まだご覧になっていない方は、ぜひ一度ホームページからご覧ください！！

**連絡先:** 特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター  
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA2階

TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768

E-mail: [sumai.sc@sumasen.com](mailto:sumai.sc@sumasen.com) URL: [sumasen.com](http://sumasen.com)



## 日本HIV情報センター (JHIC)

国籍、性別、セクシュアリティを問わず、皆が共に生きられる社会を目指すボランティア団体。

### 内容:公式サイト紹介+動画

今年2月に結成した団体で、公式サイトはFacebookに開いたばかりだが、参加させていただいた。本格的な活動を開始する準備段階のため、動画は団体紹介として作成した。2分弱の動画の中に、これまでもHIVの検査・相談・啓発などで活動していたメンバーが新しい団体を立ち上げたこと、我々が目指していることなどの紹介文と、各メンバーからのメッセージがこめられた写真や、JHIC所蔵となったメッセージキルトの写真などで構成し、団体の内容が良く分かるものとなるように努めた。

今年はオンライン開催だったので、例年はかながわ県民センターに来ることが難しい方もフォーラムが視聴出来たことは、とても良かったと思う。JHICの動画も、3日間で100人近い方に視聴をいただき、これからの活動に大きな力となった。

### 連絡先: 日本HIV情報センター

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-3-18

株イクス・キュア コーポレーション内

TEL:080-4106-1311 E-mail:oribe@aqua.biglobe.ne.jp

(担当:織部)

Facebook: <https://www.facebook.com/日本-HIV-情報センター-114128260363353>



## 横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より横浜YMCAが受託運営しています。

内容:今年のテーマは「リアルにふれる」。オンラインの活動紹介はリアル?と戸惑いはありませんでしたが、昨年の展示で伝えなかったHIV/AIDSに関するクイズやイベントの写真を使うことでセンターの様子が詳しく伝えられたと思いました。「教科書にHIV/AIDSのことは載っているか?というクイズができなかった。」「資料の一枚一枚をゆっくり読めたから、HIV/AIDSのことがわかったよ。」「来年は本物のコムちゃんに会いに行くよ。」「もっとU=Uの情報を広げないといけない。」と感想をいただきました。

コロナ禍で、マスクの着用、手洗い、ソーシャルディスタンスの確保などの対策に気疲れしている人もいます。医療従事者や新型コロナウイルスに感染した人、その周囲の人々に対して、差別や偏見の目を向けることは、心のソーシャルディスタンスを広げるだけです。HIV/AIDSと共に生きている人々に対しても、人権への配慮と支援を忘れてはならないと強く感じた文化フォーラムでした。

### 連絡先: 横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail: [info@yaaic.gr.jp](mailto:info@yaaic.gr.jp)

URL: <https://www.yaaic.gr.jp/>

### 世界エイズデー in Yokohamaの開催

「横浜YMCA」は、海外のエイズ孤児支援の活動紹介や「SHIP」はLGBTQの支援先や活動の紹介を行っています。



## 横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは共通のミッションに基づき、「平和」で「差別」や「貧困」のない世界を目指しています。横浜YMCAでは特にアジアのYMCAと協力し、プロジェクトを行っています。

**内容:**横浜YMCAは長年HIV/AIDSの課題に取り組んでいます。活動紹介動画では、タイ・バンコクYMCAとの協働プロジェクト「プロテクト・ア・チャイルド」について紹介しました。具体的には、タイ北部で人身取引予防シェルター・YMCAパヤオセンターを運営しており、子どもや女性の自立のために教育支援や職業訓練などを行いながら、人身取引予防やHIV/AIDS予防啓発活動も地域で進めています。

また、国内では、第1回AIDS文化フォーラムin横浜から事務局を務め開催を支えていること、中高生や学生などの若者を対象としたHIV/AIDS出前授業を実施していることなども動画でお伝えしました。

### 連絡先: 横浜YMCA

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721  
FAX:045-651-0169 E-mail:kokusai@yokohamaymca.org  
URL:https://www.yokohamaymca.org/



## 横浜YMCA ACT

語学と国際交流に特化した、横浜駅が最寄りのYMCAです。教育機関・企業へ出向いての英語レッスンやHIV/AIDS啓発授業も行います。

**内容:**保健師、養護教員向け「教室で使える！HIV/AIDSを伝えるワークショップアイデア」

私たちはこれまで、年に数校から依頼を受け、中学生を対象に「HIV/AIDSや性感染症予防を伝える啓発授業」を実施し、毎年このフォーラムでは、得てして講義形式になりやすい本テーマについて、ワークショップとしての実践的な方法をお伝えしてきました。

しかしながら今年度はCOVID-19の影響を受け、本フォーラムでも実践的なワークショップの実施ができなくなったばかりか、私たちが実際に学校を訪問し、多くの生徒さんたちと学びの機会を持つことが難しくなりました。そこで今回、慣れない機材と格闘しながら、これまで実施してきたワークショップのエッセンスをなんとか動画にまとめ、公開する形でフォーラムへの参加に至りました。この作成のプロセスの中で、私たちは「これからのwithコロナの時代にも情報発信を継続する方法」について、改めて意見を出し合う機会を持ちました。

今後、様々な制約がある中ではありますが、動画やZOOMなどを用いた新たな発信方法を整えつつ、このテーマへの取り組みを継続したいと考えています。

もし、関心のある方がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください。  
(文責:薩摩藤太)

### 連絡先: 横浜YMCA ACT

〒221-0835 横浜市中区神奈川区鶴屋町2-25-1 YS西口ビル2F  
TEL:045-316-1881 FAX:045-314-6805  
E-mail:li\_info@yokohamaymca.org  
URL:https://language.yokohamaymca.org/english/school/act/

### アプローチ3:

世界と日本がもし  
100人の村だったら  
~HIV/AIDSバージョン~

# HPVワクチンfor Me

HPVワクチンを無料で打つ機会を逃した大学生たちが、もう一度チャンスをください！と活動しています。

内容: 中学生向けのHPVワクチン資料を作成した大学生たちが、自分たちこそ打ちそびれた年代であることに気づき、再びHPVワクチンを無料で打ちたい、とオンライン署名活動を始めました。また、オンラインでHPVワクチンのことを学ぶ勉強会を開催しています。活動紹介では、中学生に向けた性教育講演をYouTubeで紹介しました。

連絡先: HPVワクチンFor Me

URL: <https://hpvaccineforme.jimdofree.com/>

sachiko☆dr.comのライフス... 16時間  
世界では男子にも打たれている9種のHPVワクチン。  
子宮頸がんだけでなく、陰茎がん肛門がん咽頭がん膣がん外陰がんの6つのがんを防ぎます。  
15歳までなら2回でOK。  
14歳男子2名に打ちました。@wicshiraku

世界では男子にも打たれているHPVワクチン。子宮頸がんだけでなく陰茎がん・中咽頭がん・肛門がん・膣がん・外陰がんの6つのがんを防ぎます。

小6~高1女子は無料  
6か月かけて3回接種  
自費だと約5万円です

男子は？  
高2以上は？



## 新聞記事

### カトリック新聞 2020年9月6日

### AIDS文化フォーラム in 横浜 「みとり」を考える 「宗教とAIDS」

AIDSについて正しい理解を広めることを目指す「AIDS文化フォーラムin横浜」が、8月7日から9日までオンラインで開催された。視聴者は延べ4千人を超え、全都道府県その他、海外からも視聴された。主催は「AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会」。

会期中は、新型コロナウイルスやHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染予防の基本、偏見と差別について、

教育など、多角的な視点から当事者や関係者、専門家が話すプログラムが組まれた。その中の一つ、「宗教とAIDS」では今回、「みとり」をテーマに取り上げた。今年、コロナウイルス感染症の世界的大流行によって、予期しない死や、家族も最期に立ち会えない状況が生じた。5人のパネリストは、大切な人の臨終や葬儀に必要なこと、また死の捉え方などについて対話を進めた。

進行は医師の岩室紳也さんが務め、パネリストとして、「カトリックHIV/AIDSデスク」委員の平良愛香牧師（日本基督教団）、浄土真宗本願寺派僧侶の古川潤哉師、僧侶で龍谷大学教職員のアノ食真城師、また沖縄県からカトリック信徒の山田吉吾さんが参加した。



左上・神奈川の会場から平良牧師と医師の岩室さん、右上・沖縄からカトリック信徒の山田さん、左下・僧侶のアノ食師、右下・僧侶の古川師

あるキリスト教信者が亡くなった時、その人の信仰を家族が認識しておらず仏教で葬儀を行ったが、「49日」の法要を終えた後で、教会での葬儀を希望する遺言書が見つかった。山田さんは、信仰について日ごろから家族に伝え、話し合っておくことが必要だと語った。

平良牧師は、LGBT（性的少数者）の中には、性的指向をカミングすることが良くも死なざることもあって、生きているうちに死なざることを願う人がいると述べた。

古川師は、若い人を対象に講演を続けている。「世の中では、生きる機会になつていない人が死んでいくことを願う人がいると述べた。若人たちが死について考える機会が減っていることに話及ぶと、安食師は、自身が勤める大学では、学生が亡くなると、大学として追悼法要やしのぶ会を開いており、それが、いのちについて考える機会になつていないと述べた。

岩室さんはまとめで、どのような場合でも家族、関係者で知恵を出し合い、納得できる環境をつくるのが重要ではないかと話した。

主催者によれば、今回は分科会の数を3分の1以下に減らしたにもかかわらず参加者数が減らず、遠方の人や子育て中の人も、これまで参加できなかった人が初めて視聴した例も多かったという。

また会期中、関連する7団体の活動紹介が配信されたが、中でもカトリックHIV/AIDSデスクの紹介は関心が高く、全アクセス数の4分の1を占めた。

次回は、「AIDS文化フォーラムin京都」を、10月11日にオンラインで開催する予定。

## 広がるAIDS文化フォーラム

～陸前高田 横浜 名古屋 京都 佐賀～

**内容:** 広がるAIDS文化フォーラムは佐賀、名古屋、京都、陸前高田とつないで各地の代表の方からのメッセージを頂きました。今年新型コロナウイルスの影響でやむなく開催を見合わせる事となった地域がある中、例年通り3日間かけて17の講座と7の活動紹介を行ったことに温かい言葉を頂くとともに各地の状況や今後に向けての思いを共有する場となりました。

広がるAIDS文化フォーラムもカメラのトラブルや中継がうまくいかなくなり、ドタバタした場面もありましたが、それぞれも知らなかったスタッフが知力と体力と精神力と、コロナに負けないつながり力を結集して最後までやり遂げたのを視聴して下さった方々と心に残る一場面となったのではないのでしょうか。そして来年(?)またみんなで集うことへの期待を胸に3日間のオンライン開催の幕を閉じました。最後に、横浜でのオンライン開催の会場の様子をカメラで中継し例年ならばたくさんの方で埋まる広い会場に数名のスタッフとボランティアが感染予防に配慮しながら配置している様子を見て頂きました。

ボランティアとして参加していた高校生や運営スタッフの言葉も紹介し3日間のオンライン開催は終了いたしました。参加者アンケートにも温かな励ましとねぎらいの言葉を頂き、スタッフ一同、開催してよかったという達成感と安堵そして感謝の思いでいっぱいです。

### 視聴者感想:

- 5年位前から毎年参加していますが、3日間、閉会式まで初めて参加しました。3日間学んだことを語るように、リアルに話せるようになりたいなど改めて感じました。(神奈川県 30代 教育関係)
- フォーラムという名前なのにとってもアットホームで、すごく感動しました。(千葉県 30代 自営)
- 色々な話を聞くことができ充実した時間を過ごすことができました。(神奈川県 10代 学生)



## 違法薬物の使用、コロナ感染者バッシングに共通する「正解依存症」 元NHK塚本アナらが自身の体験を語る

HIVやエイズをめぐる課題について考える「AIDS文化フォーラムin横浜」が8月7日から9日、オンラインで実施された。7日は違法薬物を取り巻く「ダメ。ゼッタイ。」について考えるプログラムが開催され、精神科医で薬物依存症に詳しい松本俊彦医師(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長)や元NHKアナウンサーの塚本堅一さん(ASK依存症予防教育アドバイザー)などが登壇した。(編集部・吉田緑)

※取材は配信会場である神奈川県横浜市でおこなった。

### ●「ダメ。ゼッタイ。」で孤立した人も

プログラムでは、違法とされている薬物の輸入や所持などによって、司法による裁きだけではなく、職を失うなどの社会的な制裁を受けた当事者が体験談を語った。

その1人である元NHKアナウンサーの塚本さんは2016年、規制されている危険ドラッグ「RUSH(ラッシュ)」を製造・所持したとして、医薬品医療機器法違反で罰金50万円の略式命令を受け、懲戒免職処分になった。

現在はASK依存症予防教育アドバイザーとして薬物に関する正しい知識を広めるため、積極的に啓発活動などに取り組んでいる塚本さん。「僕も(逮捕によって)社会的な信用を失い、孤立しました。そういう人たちがたくさんいることを知ってほしい」と訴えた。

逮捕によって医師免許の停止処分を受けた経験を持つピース医師(仮名)は、「なぜ違法薬物を使ったのか」と聞かれることに対し、次のように心境を語った。

「とても不思議な質問だと思うんです。どうしてセクマイ(セクシャルマイノリティ)になったの?という質問と一緒に、説明することが難しい」

### ●医師が語る「薬物とコロナの共通点」

松本医師は、新型コロナウイルスの感染者などが排除されたり、バッシングされたりしている現状は、違法薬物やその使用者などを取り巻く状況に似ていると指摘。「どういう風に注意しなければいけないのかということよりも、とにかくおそろしいというイメージが先行している」とした。

松本医師はこれまで、行き過ぎた予防啓発や規制により、違法薬物の使用者などを孤立に追い込む風潮を問題視してきた。また、違法薬物の恐怖を必要以上に煽ったり、逮捕・起訴された人をバッシングしたりする報道などに警鐘を鳴らし続けている。

そんな松本医師に「薬物に関するこわい話をしてほしい」と依頼するメディアもあるそうだが、すべて断っているという。司会を務めた岩室紳也医師(ヘルスプロモーション推進センター代表)も違法薬物と新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況には、当事者を責め立てるなどの共通点があるとし、その背景には「正解依存症になっている人たちがいる」と分析する。そして、次のように持論を述べた。

「私が考える『正解依存症』とは『自分なりの正解をみつけるとその正解を疑うことができないだけではなく、その正解をほかの人にも押しつける、自分なりの正解以外は受けつけない、考えられない病んだ状態』のことをいいます。『夜の街』のように、自分なりの正解とは違う人をただ排除するだけではなく、薬物もコロナの問題も自分の身近でも起こり得ることとして考える必要があるのではないのでしょうか」

### ●「ダメ。ゼッタイ。」に裁判で立ち向かった男性

「法律でダメなものは絶対ダメ」。そう考える人が多い中、規制に疑問を抱き、声を出して裁判でたたかうことを決意した男性も登壇した。元地方公務員のヒデさん(仮名・50代)だ。

ヒデさんは、ラッシュを輸入したとして医薬品医療機器法および関税法違反で起訴され、6月に有罪判決(懲役1年2月・執行猶予3年)を言い渡された。警察に自宅捜索されたことなどが職場に知られてしまい、懲戒免職処分になっている。ラッシュ(亜硝酸イソブチルなどの亜硝酸エステル類)の有害性については科学的な見地から疑問視する見解もある。ヒデさんは森野嘉郎弁護士とともにエビデンス(科学的根拠)を集め、裁判で亜硝酸イソブチルは法律が規制する「指定薬物」にあたらぬとして、日本で初めて無罪を争った。判決を受け、現在は控訴に向けて準備中だ。(詳しくはこちら: 榎原敬之さんも所持、「RUSH」規制は重すぎる? 輸入した男性が「無罪」を訴える理由 ([https://www.bengo4.com/c\\_1009/n\\_11643/](https://www.bengo4.com/c_1009/n_11643/)))

ヒデさんは「これまで当事者は『法律で決まっているから仕方ない』と誰も声を上げられませんでした。森野弁護士に出会えたおかげで、声を上げることができました。ひとりでは、たたかうことはできなかった」と森野弁護士をはじめとする支援者に感謝の気持ちを語った。

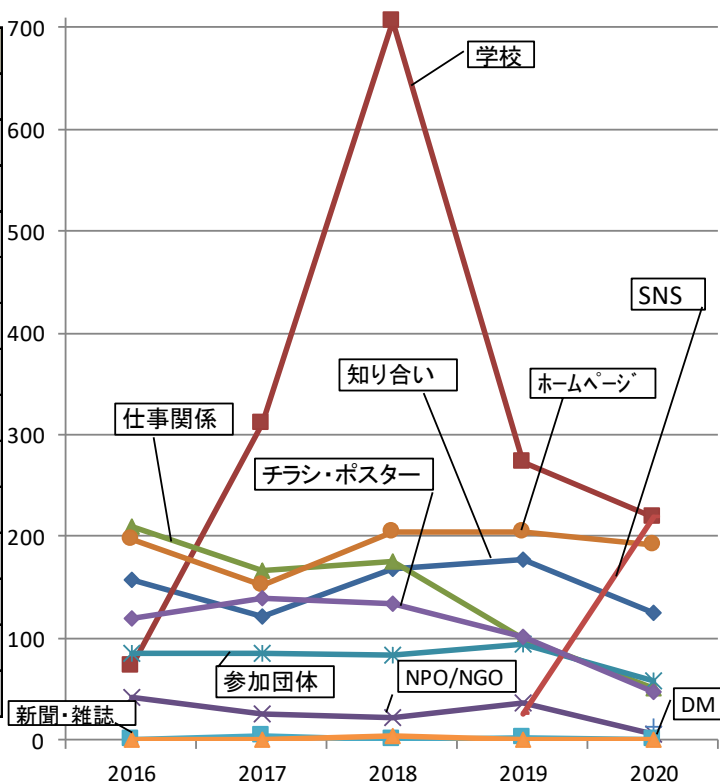
# フォーラム全体集計表

## ◆全体集計推移（2016～2020）

### 1. 何で知ったか

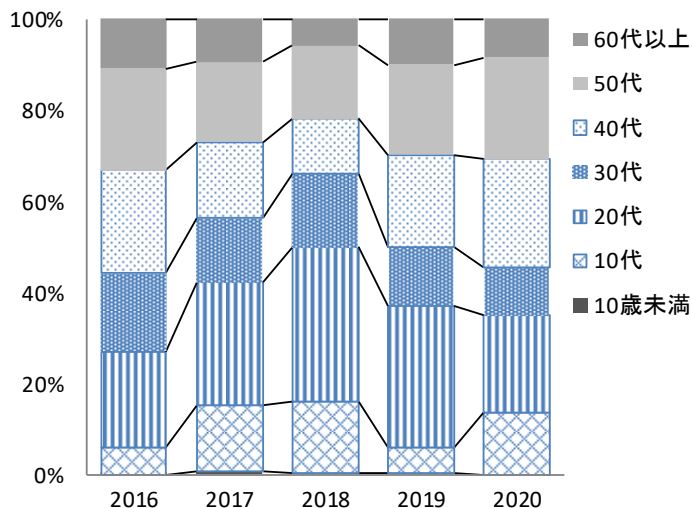
|          | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 知り合い     | 157  | 121  | 169  | 178  | 125  |
| 学校       | 73   | 311  | 706  | 273  | 219  |
| 仕事関係     | 210  | 166  | 176  | 99   | 51   |
| NPO/NGO  | 43   | 26   | 22   | 37   | 6    |
| 参加団体     | 86   | 86   | 83   | 94   | 58   |
| ホームページ   | 198  | 153  | 205  | 204  | 191  |
| インターネット  |      |      |      |      | 14   |
| SNS      |      |      |      | 26   | 219  |
| チラシ・ポスター | 119  | 139  | 134  | 101  | 47   |
| 新聞・雑誌    | 1    | 4    | 0    | 2    | 0    |
| DM       | 1    | 1    | 4    | 1    | 0    |
| その他      | 110  | 112  | 124  | 77   |      |
| 無記入      |      |      |      |      | 12   |
| 計        | 998  | 1119 | 1623 | 1092 | 942  |

※SNS: Facebook 103、Twitter 116



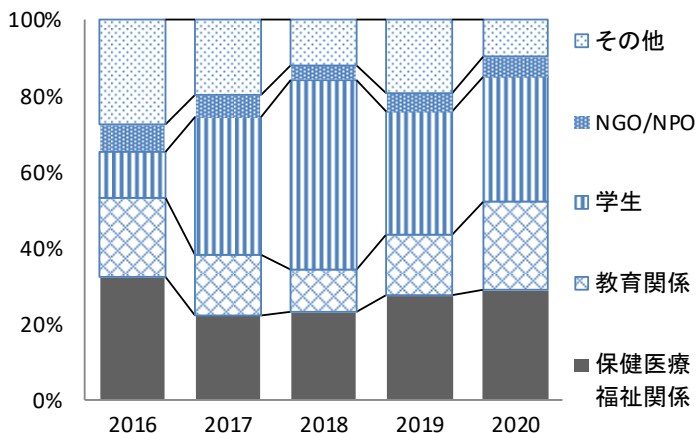
### 2. 年齢

|       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-------|------|------|------|------|------|
| 10歳未満 | 1    | 9    | 5    | 2    | 0    |
| 10代   | 47   | 140  | 227  | 55   | 91   |
| 20代   | 177  | 264  | 491  | 286  | 141  |
| 30代   | 142  | 139  | 237  | 118  | 70   |
| 40代   | 186  | 164  | 173  | 190  | 157  |
| 50代   | 187  | 173  | 233  | 182  | 149  |
| 60代以上 | 90   | 93   | 85   | 94   | 56   |
| 無記入   | 6    | 17   | 8    | 12   | 27   |
| 計     | 836  | 999  | 1459 | 939  | 691  |



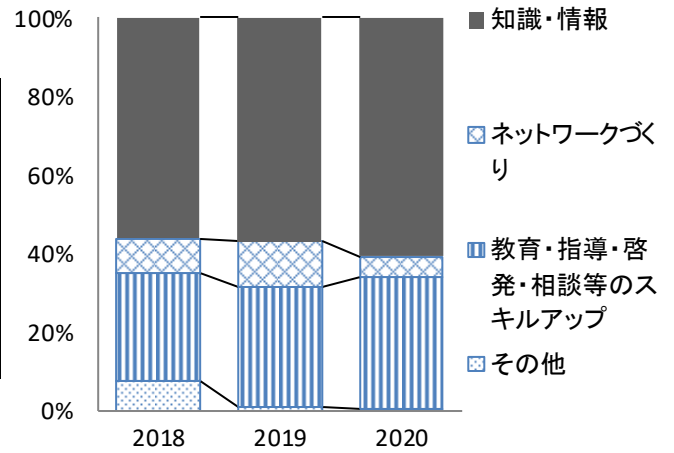
### 3. 職業等

|          | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 保健医療福祉関係 | 263  | 215  | 329  | 249  | 192  |
| 教育関係     | 172  | 155  | 165  | 146  | 156  |
| 学生       | 99   | 349  | 717  | 292  | 217  |
| NGO/NPO  | 57   | 56   | 53   | 46   | 36   |
| その他      | 227  | 196  | 176  | 176  | 66   |
| 無記入      | 18   | 28   | 24   | 27   | 24   |
| 計        | 836  | 999  | 1464 | 936  | 691  |



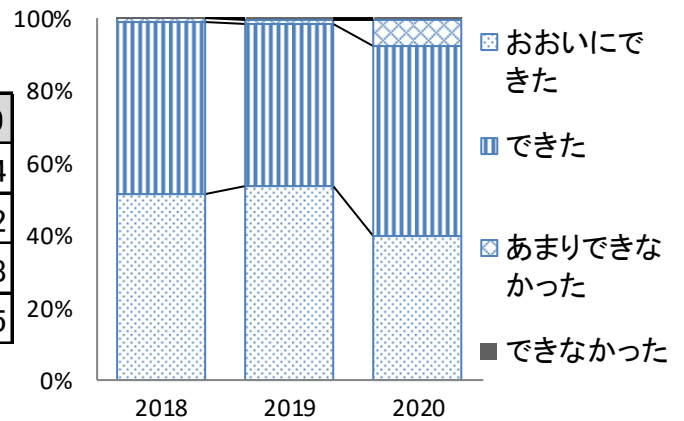
5. 来場目的

|                     | 2018 | 2019 | 2020 |
|---------------------|------|------|------|
| 知識・情報               | 1063 | 747  | 610  |
| ネットワークづくり           | 166  | 157  | 52   |
| 教育・指導・啓発・相談等のスキルアップ | 518  | 399  | 335  |
| その他                 | 140  | 10   | 5    |



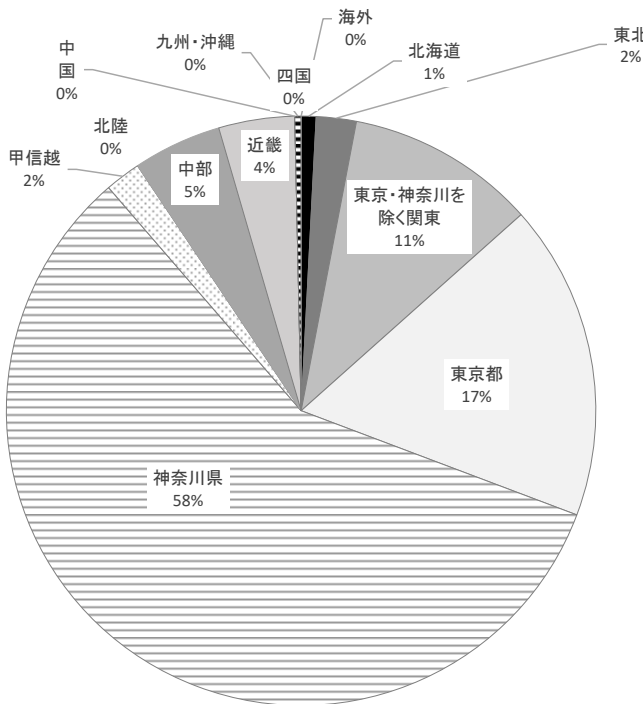
7. 来場目的は達成したか

|           | 2018 | 2019 | 2020 |
|-----------|------|------|------|
| おおいにできた   | 512  | 351  | 274  |
| できた       | 473  | 297  | 362  |
| あまりできなかった | 9    | 8    | 48   |
| できなかった    | 3    | 4    | 5    |

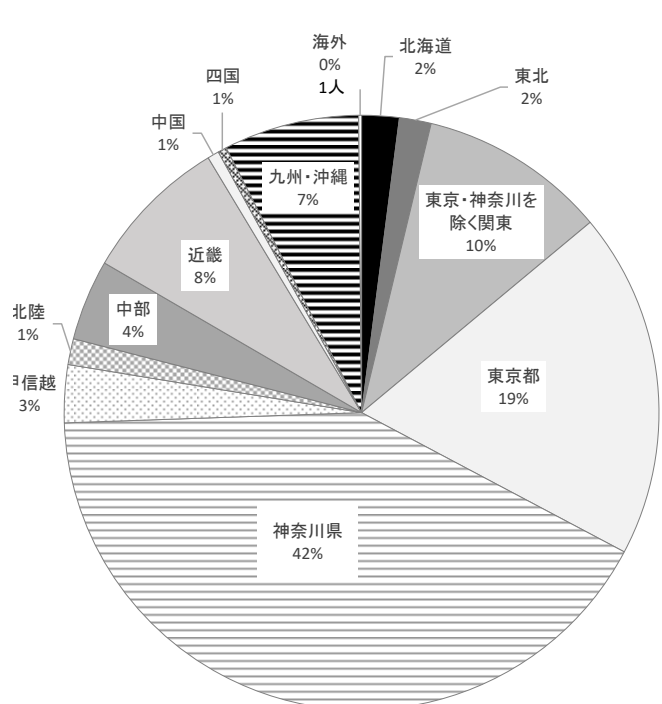


オンライン化でここが変わった?!

居住地 (2019年)



居住地 (2020年)



2020年はオンラインで開催したことにより、海外(1人)を含む幅広い地域からの参加がありました。前年度と比較すると、これまで参加が少なかった地域からの参加が増えたことがわかります。アンケートでは「これまで興味はあっても横浜まで行けなかったのが嬉しい」という声も多数寄せられました。

## AIDS文化フォーラム in 横浜 27回の歩みー開催概要と経緯ー

AIDS文化フォーラム in 横浜は、「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず、社会を取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」を特徴に27回歩み続けています。

組織委員会:HIV/AIDSに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会:HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局:横浜YMCA ボランティア:会場運営に市民ボランティアの公募ー小学生から70歳代までの幅広い参加ー

### 第1回(1994年)～第8回(2001年) 開催概要

| 開催年  | 回数 | テーマ                    | プログラム数 | 参加団体数 | 会場         | 入場者数  | 開催日数                  | 話題/社会                    | 来場者傾向      |
|------|----|------------------------|--------|-------|------------|-------|-----------------------|--------------------------|------------|
|      |    |                        |        |       |            |       |                       |                          |            |
| 1995 | 2  | ともに生きる                 | 31     | 26    | 2,200      | 3日間   | 母親が語る薬害エイズ<br>薬害報道の増加 |                          |            |
| 1996 | 3  | ともに生きるから連帯へ            | 34     | 28    | 1,600      |       | 性風俗とAIDS<br>薬害/薬害和解   |                          |            |
| 1997 | 4  | 未来へのつどい                | 72     | 56    | かながわ県民センター | 4,607 | 3日間                   | 映画・秋桜<br>カクテル療法          | 全国から<br>参加 |
| 1998 | 5  | エンパワーメント～<br>自立と協働に向けて | 76     | 50    |            | 5,694 |                       | TV・神様もう少しだけ<br>障がい者認定    |            |
| 1999 | 6  | いまを生きる                 | 70     | 47    |            | 3,240 |                       | 複数作家の写真展<br>ピル解禁・感染症予防法  |            |
| 2000 | 7  | いま一人ひとりができること          | 64     | 49    |            | 3,801 |                       | 女性プログラム<br>女性用コンドーム・薬物乱用 |            |
| 2001 | 8  | いま一人ひとりができること          | 72     | 52    |            | 3,946 |                       | バリアについて考える<br>ハンセン病に学ぶ   |            |

### 第1回(1994年)～第8回(2001年) 主な内容

#### 第1回～第3回

#### 市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。

#### AIDS文化フォーラム

日時:1994年8月6日～14日  
会場:神奈川県文化交流協会(横浜)  
横浜市中央区山下町 産業貿易センター1階

099-779-0001(当日は099-779-0002) FAX:099-779-0003  
入場料:無料



■第1回(1994年):社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)～第3回(1996年):「第1回での成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

#### 第7回～第8回

#### 専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

#### 第4回～第6回

#### 新たな工夫と挑戦へ!～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年):「PWA(People with AIDS)のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなるなど、HIV陽性者の方々の積極的な協力がありました。

■第5回(1998年):治療薬が増え、HIV感染は慢性疾患になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年):1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

■第7回(2000年):恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

■第8回(2001年):パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV陽性者の桜屋伝衛門さんのトークを通して「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

## 第9回(2002年)～第17回(2010年) 開催概要

| 開催年  | 回数 | テーマ                         | プログラム数 | 参加団体数 | 会場         | 入場者数 | 開催日数 | 話題/社会                           | 来場者傾向                       |
|------|----|-----------------------------|--------|-------|------------|------|------|---------------------------------|-----------------------------|
| 2002 | 9  | つながるつながる                    | 81     | 56    | かながわ県民センター | 4808 | 3日間  | 国際NGO・国際神戸会議<br>SARS            | 国際NGO等<br>幅広く拡大             |
| 2003 | 10 | AIDSこれまでの10年、<br>これからの10年   | 74     | 55    |            | 4624 |      | 10年の振り返り<br>国際エイズ会議の延期          |                             |
| 2004 | 11 | いのち<br>～市民が続けるAIDSへの取組み     | 83     | 66    |            | 6031 |      | 若者の参加<br>国際エイズ・バンコク会議           |                             |
| 2005 | 12 | つながる空間                      | 74     | 60    |            | 5509 |      | アジア太平洋地区エイズ・<br>神戸会議            |                             |
| 2006 | 13 | つながる空間<br>～Living Together～ | 72     | 56    |            | 3880 |      | 第20回日本エイズ学会会長<br>に池上千寿子さん       | 文化的<br>側面からの<br>アプローチ<br>増加 |
| 2007 | 14 | つながる                        | 71     | 56    |            | 3689 |      | かながわレインボーセンターSHIP<br>が横浜西口にOPEN |                             |
| 2008 | 15 | つながる<br>～いま、私にできること～        | 75     | 60    |            | 4170 |      | アフリカ会議横浜で開催                     |                             |
| 2009 | 16 | 他人ごと?!                      | 55     | 54    |            | 3547 |      | 新型インフルエンザ<br>政権交代               |                             |
| 2010 | 17 | 他人ごと??                      | 52     | 52    |            | 3296 |      | 猛暑<br>1ドル80円台                   |                             |

## 第9回(2002年)～第17回(2010年) 主な内容

## 第9回～第12回



■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。

■第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。



■第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。



## 第13回～第17回

## つながる空間、「他人ごと」から「本音の対話」へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがピア講座を担当するなど若者の活躍がみられました。日本エイズ学会の会長に、NPOの代表の池上千寿子さんが就任した、画期的な年でした。

■第14回(2007年)：3名のHIV陽性の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

■第15回(2008年)：教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」では、本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)：正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)：妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッション。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。

## 第18回(2011年)～第27回(2020年) 開催概要

| 開催年  | 回数 | テーマ                          | プログラム数 | 参加団体数 | 会場         | 入場者数  | 開催日数                     | 話題/社会                                   | 来場者傾向          |
|------|----|------------------------------|--------|-------|------------|-------|--------------------------|---|----------------|
| 2011 | 18 | エイズの何を知っていますか?<br>～変わる常識～    | 64     | 44    | かながわ県民センター | 3,255 | 3日間                      | 東日本大震災<br>福島原発事故                        | 被災地でも<br>つながりが |
| 2012 | 19 | AIDS??文化??<br>～仲間 新発見!～      | 69     | 53    |            | 3,184 |                          | 横浜で<br>第26回日本エイズ学会                      | 専門職<br>の増加     |
| 2013 | 20 | これまでの20年<br>これからの20年         | 70     | 56    |            | 4,278 |                          | 20年の積み重ねが京都、<br>そして陸前高田につながる            | 参加者増<br>で賑わう   |
| 2014 | 21 | 未来につなぐ新たな船出                  | 69     | 56    |            | 4,165 |                          | 21年目の新たな船出<br>佐賀に広がる                    | 心機一転           |
| 2015 | 22 | 今こそ、ともに生きる                   | 67     | 54    |            | 3,701 |                          | LGBTの権利拡大<br>渋谷区条例、文科省通知                | 交流拡大           |
| 2016 | 23 | つながる ひろがる わかちあう              | 66     | 55    |            | 3,542 |                          | 相模原津久井やまゆり事件<br>薬物への関心                  | 10代増加          |
| 2017 | 24 | リアルとであう                      | 65     | 49    |            | 6,394 |                          | 第31回日本エイズ学会(生島会長)<br>AIDS文化フォーラム in 名古屋 | 入場者増加          |
| 2018 | 25 | #リアルとつながる                    | 62     | 47    |            | 5,355 |                          | 記念切手作成<br>SNSでの新たな広がり                   | 25周年           |
| 2020 | 27 | リアルにふれる<br>一人ひとり大切なことを探してみよう | 24     | 16    | オンライン      | 4,076 | 新型コロナウイルス感染拡大<br>オンライン開催 | 全都道府県                                   |                |

## 第18回(2011年)～第27回(2020年) 主な内容

## 第18回～第21回

## つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回(2011年)：3月11日に東日本大震災があった中、オープニングでは陸前高田市の方々から被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていくことを実感したフォーラムとなりました。

■第19回(2012年)：昨年のAIDS文化フォーラム in 京都への広がり。11月に開催された日本エイズ学会(横浜)とのつながり。改めてHIV/AIDSを文化の視点で考えさせられました。

■第20回(2013年)：陸前高田でもAIDS文化フォーラムが開催されることに。一区切りを迎える一方で、新たな時代への誓いをこころに刻み、この先も続けることをみんなで確認し合いました。

■第21回(2014年)：21年目に新たな船出となったAIDS文化フォーラムが佐賀に広がることに。継続する力は多くの人や地域からのサポートがあってこそを実感!

## 第22回～第23回

## つながる・ひろがる・わかちあう時代に

■第22回(2015年)：事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろんな人たちと一緒に考える時代になりました。

■第23回(2016年)：つながりがひろがり、お互いの思い、課題をわかち合う中、熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを持っている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。



## 第24回～第27回

## 「リアル」がキーワード?

■第24回(2017年)：バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとであう」大切さを再確認しました。その思いが結集すべく、SNS等も積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。ぶれいす東京代表の生島さんが日本エイズ学会の会長に。AIDS文化フォーラム in 名古屋初開催。

■第25回(2018年)：気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV/AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV/AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。

■第26回(2019年)：AIDS文化フォーラム in 横浜が当初から大事にしてきた「文化」というキーワード。今年にはリアルにHIV感染、同性婚、薬物が進むことを実感することができました。

■第27回(2020年)：新型コロナウイルスの感染拡大により、ZoomやYouTubeライブを用いたオンラインセミナー、動画による活動紹介等、全企画をオンライン配信で行いました。全都道府県、海外からもアクセスがあり、コロナ禍でも歩みを止めなかったことへ多くのエールをいただきました。

## 第27回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

### ■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇公益財団法人横浜YMCA 佐竹博(組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之  
◇カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 古田和彦

### ■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局 医療危機対策本部室



### ■助成金 公益財団法人エイズ予防財団

令和2年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

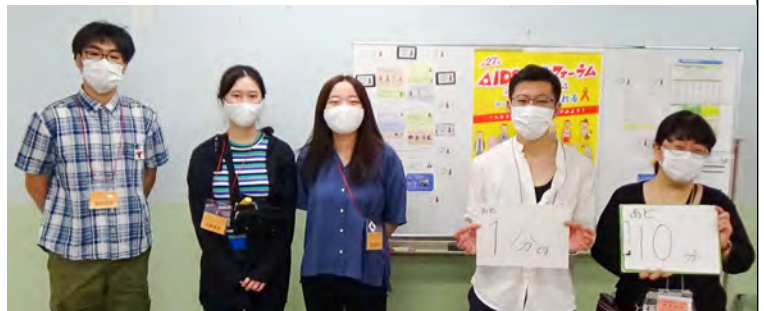
### ■後援

◇横浜市健康福祉局 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇横浜商工会議所  
◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団

### ■企画運営

#### AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。



伊東和子 猪谷亜子 岩室紳也 大江浩 大塚英彦 糟谷潤 金井多恵 川島真理子 熊谷洗介 桜屋伝衛門 佐藤睦  
千代木ひかる 畠山雅行 彦根倫子 前田陸生 三宅晶子 宮崎豊久 母袋秀典 矢部尚美 山田雅子 吉永陽子  
渡辺誠二

### 当日サポート

入川祥子 遠藤美優 斉藤肇 佐部秀太 須藤風音 松田美波  
村田匠吾

### オンラインサポート

佐藤歩美 松村美穂 船木愛梨 三ヶ尻友美 渡邊楓 藤原楓音  
百瀬莉吏花 鵜飼靖子 大槻南美 田畑彩 唐澤あゆみ



### ■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。26年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子 白井美穂

## AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約

### 1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。  
(以下、「組織委員会」と略す)

### 2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

### 3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける（エンパワーメント）集いとする。

### 4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

### 5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

### 6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

### 7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

### 8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

### 9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

### 10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催（運営委員会へ委嘱）の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

### 11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

### 12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

## 協賛・寄付 ご協力に感謝申し上げます

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区  
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館  
TEL: 03-5367-6652  
URL: <http://ys-east.jimdo.com/>

ヴィーブヘルスケア株式会社  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR  
TEL: 03-4231-5150 FAX: 03-4231-5983  
URL: <http://glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html>

ジェクス株式会社  
〒540-0012大阪府大阪市中央区谷町2-3-12  
マイルト谷町ビル11F  
TEL: 06-6942-9002 FAX: 06-6941-5234  
URL: <https://www.jex-sh.jp/>



## 参加団体等名称・索引

### ◆名称順

有馬祐子 .....P8  
安食真城 .....P13  
岩室神也 .....P7,8,9,10,13,15  
かずえちゃん .....P13  
加藤力也 .....P7  
カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク .....P16  
神奈川県ユニセフ協会 .....P10  
上村茂仁 .....P13  
斉藤章佳 .....P10  
椎名雄一 .....P9  
平良愛香 .....P13  
塚本堅一 .....P9  
特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター .....P16  
ナルコティクスアノニマス .....P14  
日本HIV情報センター(JHIC) .....P17  
認定特定非営利活動法人AIDSネットワーク横浜 .....P11  
ピースさん .....P9  
古川潤哉 .....P12,P13

星野貴泰 .....P11  
松本俊彦 .....P9  
宮崎豊久 .....P7,10,13  
宮田一雄 .....P7  
水谷修 .....P15  
薬害エイズを考える山の手の会 .....P14  
山田圭吾 .....P13  
山田雅子 .....P11  
横浜AIDS市民活動センター .....P17  
横浜YMCA .....P18  
横浜YMCA ACT .....P18

### ◆アルファベット団体名

AIDS文化フォーラム in 京都 .....P20  
AIDS文化フォーラム in 佐賀 .....P20  
AIDS文化フォーラム in 横浜 .....P6,7,10,13,15,20  
AIDS文化フォーラム in 陸前高田 .....P20  
AIDS文化フォーラム in 名古屋 .....P20  
HPVワクチン for Me .....P12,19

## 2020 (第27回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日: 2020年11月20日  
発行者: AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会  
編集: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会  
イラスト協力: もたいひでのり  
連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜事務局  
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内  
TEL: 045-662-3721 FAX: 045-651-0169  
URL: <https://abf-yokohama.org/> Twitter →  
Facebook: <https://www.facebook.com/abfyokohama/>  
E-mail: [abf@yokohamaymca.org](mailto:abf@yokohamaymca.org)



# 第28回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

期間

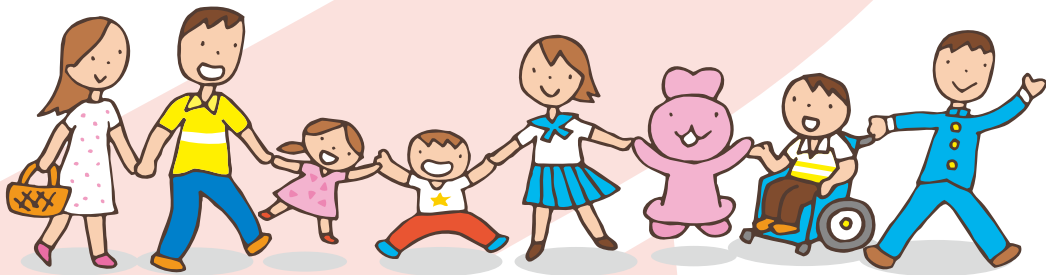
2021

8/6 金 → 8日

参加自由  
入場無料

※ 現在、会場が確定していません。決定次第 WEB サイトでご案内します。

## あなたもフォーラムに 参加しませんか!!



### 団体として参加できます。

HIV / AIDS につながる視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表形式は自由。例年多くの団体が、教育・若者・国際・HIVと共に生きる・医療といった多様な切り口で発表しています。詳しくはホームページやチラシ等をご覧ください。(募集開始4月頃)



### ボランティア体験しよう!

イベントボランティアとして、フォーラムに参加しませんか?小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。ボランティア活動を通じて、新しい出会いや日常に役立つ知識が得られます。来年も、みんなでフォーラムを盛り上げましょう!



詳細はホームページをご覧ください! <https://abf-yokohama.org/>

 Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

